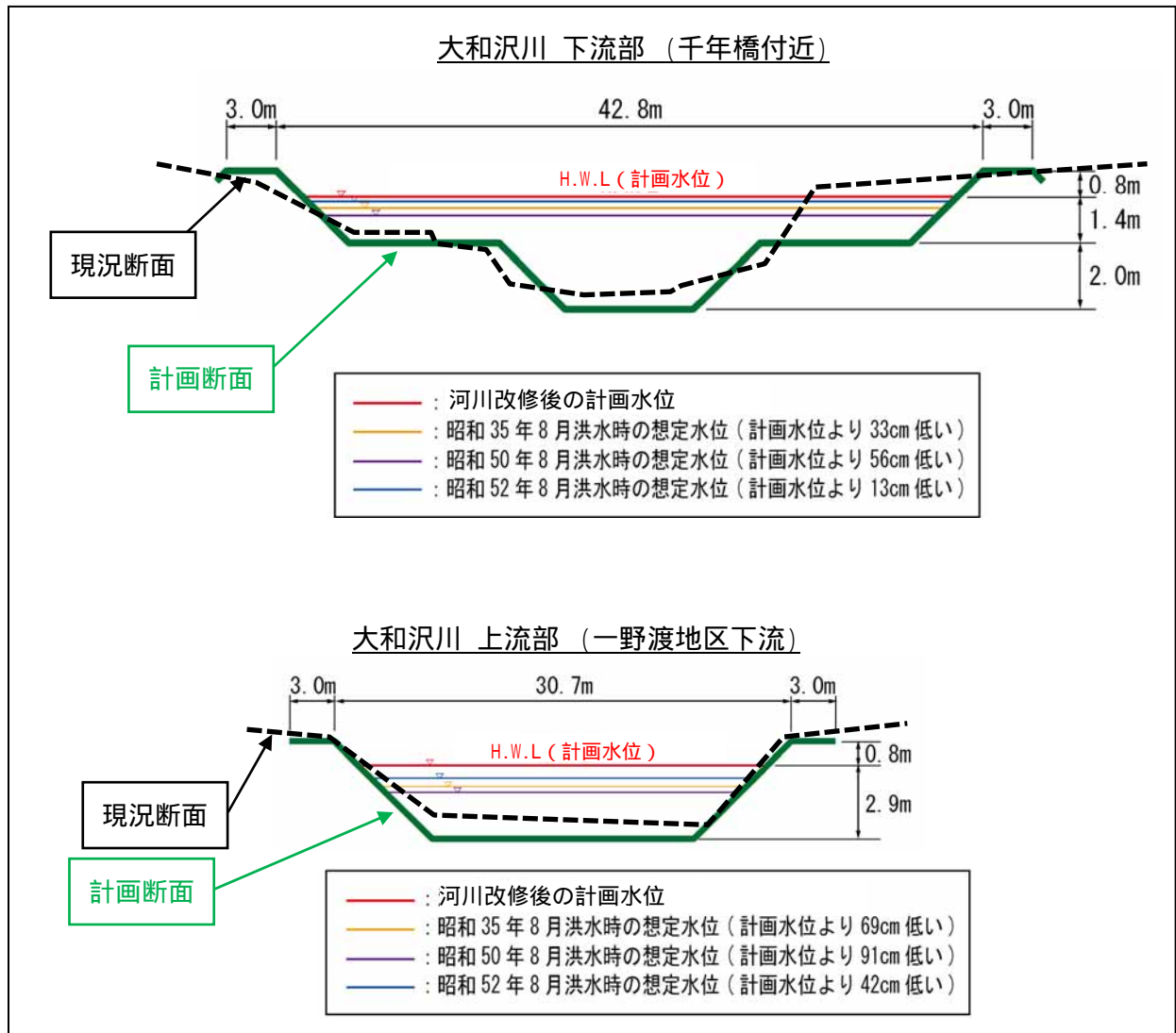


平成 22 年度第 3 回青森県公共事業再評価等審議委員会における質問事項に対する回答 (大和沢ダム)

地元関係者、再評価委員

大和沢ダム中止後の具体的な治水対策を示してほしい。

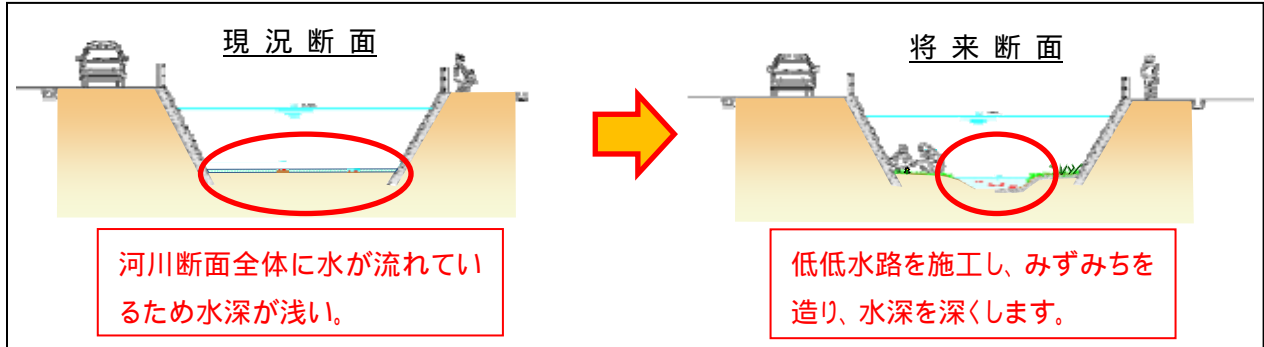
- ・岩木川水系河川整備計画に基づき、当面は 1 / 2 0 の治水安全度で河川改修を行ってまいります。今後、詳細な調査、検討を行ってまいります。代表的な改修断面案（下流部及び上流部）は次の通りです。



- ・この代表的な改修断面案の中の河川改修後の計画水位とは、下流部では計画流量 3 2 0 m³/s、上流部では計画流量 3 0 0 m³/s が流れたときの水位になります。
- ・この計画流量が流れたときの水位を基準として、今までに発生した代表的な洪水が来たときの各地点での想定水位を計算で求め、その水位が計画水位より幾ら低いかを表しております。
- ・例えば、河川改修後の計画水位と昭和 3 5 年 8 月洪水時では、下流部で計画洪水より 3 3 cm、上流部で 6 9 cm 低い水位ということになります。

土淵川・腰巻川の慢性的な水不足への水量確保対策を図ってほしい。

- ・土淵川は、総合流域防災事業（弘前地区かわまちづくり）で、市民に水深を深くし水量感を感じていただけるような低低水路などの整備を行うこととしており、昨年度より調査に着手しております。



- ・腰巻川については、どの場所で、どの程度少なく、どのように困っているのかについて調査してまいります。

腰巻川の現況



地元関係者

岩木川からの導水を検討してほしい。

- ・土淵川については、今後、低低水路を施工して「みずみち」をつくり、水量感あふれる水辺空間を創出することとしております。
- ・その河川整備を終えた後、土淵川の状況を観察し、その後の対応を検討したいと考えております。
- ・なお、岩木川からの導水は、岩木川の流況、水利権、導水のための施設、維持管理費用など、多くの課題があると認識しています。
ダム建設中止のお知らせが来ない。
- ・前回 8 月 1 日のお知らせは、ダム中止に伴う治水対策の考え方を周知するために大和沢川沿川の住民のみに配布したものです。
- ・今回のお知らせは、10月1日の弘前市の広報配布と一緒に、関係する雨量、洪水流量の数値を入れた大和沢ダムに関する資料を、旧弘前市全世帯約 57,000 世帯に配布致しました。

腰巻川の水質について、県のデータは疑問。

- ・県は、高田高架橋地点で年12回の水質調査を行っており、JISに規定されたウィンクラーアジ化ナトリウム変法によるBOD75%値で、経年変化を注視しております。
- ・その結果によりますと、腰巻川のBODは、最悪であった平成7年の15mg/lから年々改善され、平成21年には、1.1mg/lと本川平川の環境基準2.0mg/lを下回り満足しております。
- ・また、別途弘前市で実施している年12回の水質調査でも、平成21年のBOD75%値は1.3mg/lと、県とほぼ同様の値となっております。

腰巻川の中州にゴミが引っかかり、これが汚れの元凶で、ミズアオイなどの水生植物がなくなっている。

- ・河川内に配置した石、中州については、流水の変化とせせらぎの創出、親水性の向上の効果があると考えております。
- ・河川を利用する市民の声をお聞きし、問題点の把握に努め、水生植物の回復など河川環境の改善事項について検討してまいります。
- ・また、河川清掃などの河川環境の取り組みにつきましては、引き続き地元の方々のご協力をいただきながら進めていきたいと考えております。

再評価委員

県の住民への配付資料は説明不足、数字を入れて説明する必要がある。

- ・10月1日、弘前市の広報配布と一緒に、関係する雨量、洪水流量の数値を入れた大和沢ダムに関する資料を、旧弘前市全世帯約57,000世帯に配布致しました。
大和沢川の治水安全度の1/20は、全県的にはどうなっているか。
- ・大和沢川近傍の平川、腰巻川、引座川や、1級河川馬淵川水系の浅水川と同等の安全度です。当初1/40でやると約束して、今1/20に変えると言うのは理解されない。
- ・大和沢ダムについては、今まで建設の可能性、妥当性を調査している段階でありました。
- ・大和沢ダムの建設が実現した場合には、1/40の安全度を確保する計画でありましたが、ダム建設の主要な目的であった水質改善のための補給の必要性がなくなったため、ダムの建設は中止することとし、従来1/20の安全度を目標とした河川改修計画を当面実施してまいります。
- ・その上で、社会状況、災害状況を踏まえて、治水安全度を段階的に高めてまいりたいと考えております。
- ・そのため、将来的には1/40を超える安全度になることも考えられ、その際には、ダムを含めた他の貯留施設についても検討してまいります。